



# 四日市 ロータリークラブ



事務局 四日市市安島一丁目3番38号901号室  
例会場 四日市都ホテル3階  
例会日 毎週 木曜日 午後12時30分

電話 059-353-1616 (直通)  
電話 059-352-4131 (都ホテル)  
創立 昭和10年12月14日

会長 小林 長久  
幹事 萩野 昌毅  
会報委員長 菊池 雄一

「ロータリーを實踐し みんなに豊かな人生を」

ロン D. パートン  
2013~2014年度国際ロータリー会長

## 今、知っておきたい國酒“日本酒”の話 ～ソムリエから見た日本酒の今と未来～

卓話 5月8日

(株)ア・シユール・インターナショナル 代表取締役 ワインコーディネーター 友田 晶子 氏



初めまして、トータル飲料コンサルタントの友田晶子です。

まず、トータル飲料コンサルタントとは、簡単に申せば、酒類全般に関

して、造り手と飲み手を結びつける仕事ということになります。始まりは25年前。ワインコーディネーターやソムリエの仕事がきっかけですが、日本で働くソムリエならば日本の酒がわからないとお話にならないということで日本酒・焼酎を学び、今では酒類全般に関して講演や執筆、コンサルティングを通しPR等を行っています。

さらに、日本料飲ビジネス研究会は、全国の宿泊施設や観光関連団体さまなどを対象に、飲料部門売り上げ支援をしております。

さて今回は、ソムリエというワイン視点からみた日本酒の今と未来をお話します。

「専門用語や種類も多く、自分で選べない」というイメージがあり、さらに「ワインなど他のお酒の台頭」で年々消費が減少しています。しかし、現実には「今の日本酒は史上最高品質」ですし、業界は「和らぎ水」で飲み過ぎ防止を提唱しています。

また「スパークリング日本酒、クールスタイル(カクテル)、スイーツやチーズとの組み合わせ」など新しい楽しみ方が生まれ、東京大阪など中央では「日本酒バー、日本酒ビストロ、古酒バー」などが登場し、日本酒はオシャレという若者が増えつつあります。

わかりにくい日本酒専門用語を上手に「翻訳」して販売する「日本酒きき酒師」や「日本酒ソムリエ」の活躍も見逃せません。

『ワイングラスでおいしい日本酒アワード』や数々の国際ワインコンクールで入賞する日本酒銘柄も登場し、プレミアム日本酒が世界的に注目され始めています。

●右肩下がりの日本酒消費、現状と対策  
日本酒には、「悪酔いする」「オシャレじゃない」

●日本酒の魅力、再認識  
なにより「季節感がある」「高度な醸造技術と

伝統「いろんな温度で飲める」「身体にやさしい、ストレス緩和効果」「料理に合う、特に魚介の生臭みを消す」などが日本酒の大きな魅力です。また、原料費の高さからかんがみれば、日本酒は、実は非常にリーズナブルな酒であることを知っていただきたく存じます（一般食用米は1kg 300円に対し、酒造好適米は1kg 600円であり、さらに玄米を精米するので非常に贅沢な酒となる）。

●日本酒の未来

日本酒を世界に！というスローガンのもと、2013年度日本酒輸出金額は100億円突破しました。過去最高で前年比18%も上回っています。

また輸出促進の「國酒プロジェクト」「クールジャパン」、訪日観光促進の「ヴィジットジャパン」「酒蔵ツーリズム」など官民一体となった日本酒バックアップがあり、さらに「世界遺産“和食”」「おもてなしの東京オリンピック」との運動で、日本酒はますますスポットライトが当たるはずで

●日本酒の楽しみ方・一流の男の日本酒マナー

日本酒の魅力は「さしづ、さされづ」。しかし無理強いほしくないことがマナーです。また、小津安二郎の映画に出て来るような、手酌が似合う大人

の男の飲み方を見直してみるのもいいのではないのでしょうか。

健康的に、また飲み過ぎないように、ぜひ「和らぎ水」を活用してください。

さらにもうひとつ。日本酒を飲み分けるテクニックをちょっぴり身に付けていただきたい。たとえば、最初の一杯はあっさり系（吟醸、生酒）、その後だんだんと濃い系に（純米、きもと、山廃）に移行するとか。刺身にはあっさり系、焼きもの・煮もの・揚げ物には濃い系と使い分ける。ちょっとしたことですが、お酒の楽しみ方をわかっている大人の男の飲み方という印象です。

そしてなにより、だらだら飲まないこと。もう少し飲みたいなというところで切り上げる勇気も必要ですね。

最後に、ロータリアンには後輩を育てる義務があります。若い人がお酒を飲まなくなったのはカッコいい酒飲み先輩がいないからです。後輩にとって、「あの人と飲みたい」「あの人の飲み方はカッコいい」と憧れを持たれるような先輩になっていただきたく存じます。

生意気を申しました。本日はありがとうございました。

# 地域の文化まちかど博物館

卓話 5月15日

四日市地域まちかど博物館 推進委員会 代表 久安 典之 氏



個人のすまいや仕事場の一角を博物館として公開する「まちかど博物館」では、コレクションや伝統の技・手仕事などを、魅力的な館長さんたちの

語りとともに見ることができます。

「四日市地域まちかど博物館」の取り組みは、四日市市・菰野町・朝日町・川越町を対象に、気軽に触れることのできる“文化のネットワーク化”を目指して有志によりスタートしました。「まちかど博物館」は、もともと三重県が民間（伊勢市）

の取り組みを参考に県内全域に呼びかけた事業ですが、この地域ではネットワーク化できずに事業が終了していたものを、“それではもったいない…！”、“この地域をネットワーク化して県内全域のネットワークにしよう！”と、当時私の所属していた「三酒ヘリテージの会」を母体に活動を始めたものです。2007年からの1年余りの準備期間を経て2009年3月27日に50館でオープンし、その後増減を繰り返しながら今年の3月で5周年を迎え、現在84館となりました。県内全域では500館を超える「まちかど博物館」があり、少なからず地域文化の拠点としての役割を果たすもの